

論語の学堂（陽明学研究所）開催報告

事業概要

本事業は本学の歴史及び建学の精神に基づき、平成24年3月から開始した事業である。本学の淵源は宝徳元年（1949）に遠祖長尾昌賢が学問所を開設したのに始まり、世世漢学の教授を以て地域教育に貢献してきた。

古来、漢学と呼び習わされている学問の中心にあるのが四書・五経と総称される中国の古典であり、就中日本では古代より論語が重んじられてきた。そして本学は論語の「仁」を建学の精神とし、学生へ全人教育を行っている。福祉は特に人と人との関係構築が重視される分野であり、人間関係を築く上で最も大事なのが他者を己の如く感じる心、要するにそれが「仁」である。福祉と論語は決して無関係ではない。

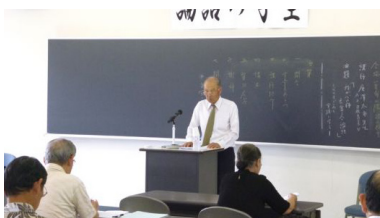
この論語の精神、つまり「仁」を広く社会に還元するために、平成24年より公開講座として開始するものである。

第1回／平成25年6月10日

▶ 講演者：唐澤太市先生（元県教育長）

▶ テーマ：「我が心の師良寛さんと論語 - その真心と実践に学ぶ -」

今期の論語の学堂は、人生の指針として論語を活用されている方を講師としてお招きしました。第1回目は群馬県元教育長唐澤太市先生が「我が心の師良寛さんと論語 - その真心と実践に学ぶ -」と題して、ご講義くださいました。講義に先立ち、鈴木利定学堂長のあいさつ、市川忠夫副学堂長の講師紹介がありました。唐澤先生は、良寛における論語の位置づけがどのようなものであったのかを、論語の各言葉を例に出し、詳しく説明してください。また、講義の中で、論語の精神が今こそ必要であると話されていました。



第2回／平成25年6月17日

▶ 講演者：岡野 康幸先生（本学助教）

▶ テーマ：「孔子と顔回が楽しんだ境地とは？」

論語と言ったら皆さんはどのような印象を持つでしょうか。「難しい」「堅苦しい」といった印象が先行するかも知れませんが、しかし論語には「楽（たのしみ）」について述べた言葉もあります。しかし孔子自身、楽しみの具体的内容は言うておりません。また孔子は顔回を「その楽しみを改めない」と評していますが、顔回の楽しみについても具体的には触れていません。第2回目は孔子や顔回が楽しんだ境地を、人々がどのように理解したか。この点について論語解釈の立場から解説されました。



第3回／平成25年6月24日

▶ 講演者：一場 貞先生（中之条歴史と民俗の博物館長）

▶ テーマ：「論語と人生」

警察学校で教鞭を執られた経験を基に、第3回目はどのようにしたら学生たちに論語に興味・関心を持ってもらえるかを、一場先生ご自身が作成された「孔子の時代と生涯」「論語にみる孔子像」「孔子の弟子」等の資料から解説されました。また、先生ご自身が地元で開催されている「初級論語入門」の様子を話して下さり、論語を受講する方々の態度は、何処に行っても共通して真摯であると話されていました。

